

# 令和4年度第1回多文化共生推進会議 議事結果

日 時：令和4年9月13日（火）  
14：30～16：00  
場 所：埼玉会館3B会議室

## 1 開会

## 2 委員紹介・委員長選出

委員長は中本委員、副委員長は佐藤郡衛委員となった。

## 3 議事

### (1) 埼玉県多文化共生推進プランについて

資料に基づき、国際課から説明。

<H29～R3 年度プランの評価について>

(委員意見)

- 教員の意識向上は子供の教育において非常に大事な役割を担うものであり、コロナ禍の中でもオンライン形式に変更するなどして開催できているのならば、実施できたとしてよいと思う。
- 「3 ともに輝き活躍する地域づくり」における取組は心の壁につながるものなので大事にしたい。
- 目標設定による評価もいいが、外国人住民や研修受講者等の受益者側の評価も大事かと思う。数よりも内容や質に視点を当ててもよかったのではないか。
- 行政の実実施計画であるため評価方法については仕方のない面があると思うが、次の施策につながるようなものについては、個々の施策の課題を明確にしておくのが望ましいと思う。

<R4～8 年度プランの概要について>

(委員意見)

- 「1 計画の目標」について「日本人」「外国人」で切り分ける必要はないように思う。また「日本一暮らしやすい」という言葉が分かりにくい。
- 「日本一暮らしやすい」というのは、仕事のための居住のみならず子育て等を通じて生活基盤を築いてもらうことにあると思う。県のプランはその点に近いものになっており、より良い方向に進んでいるように思う。
- 「日本人住民、外国人住民が共に」とあるが、日本人同士でも多様性が広がっておりその点も視野に入れてほしい。「日本一暮らしやすい」とはライフステージごとによって変化するものであり、領域とライフステージのクロスで施策を打ち出す形にすると分かりやすいのではないか。
- 「4 計画の指標」として5,000人と人数多く目標を掲げているのはありがたい。教育局の多文化共生推進員の応募者についても、居住地に偏在が

生じている状況なので、県内全域でより多くの人育成されればと思う。さらには小中学校と高校、支援団体等との連携がもっと強化できればと思う。

- 「5 施策の展開」において「多文化共生の場づくり」は非常に重要である。行政が積極的に企画して場を作っていくべきではないか。その需要はあると感じる。行政でも需要を掘り起こし、積極的に企画してほしい。
- 「5 施策の展開」に「2 外国人が活躍できる地域づくり」とあるが、就職活動がうまくいかず、卒業後に半年間の特定活動の在留資格で滞在し、それでも就職できず帰国を余儀なくされている留学生もいるので何かできればと思う。

<全般>

(委員意見)

- 「やさしい日本語の普及」については、外国人支援に興味がある人ややさしい日本語を知っている人だけでなく、それ以外の人にも普及していくべき。例えば自治会役員などへの普及は積極的に行ってほしい。例えば年に10人でもいいので着手してもらえればと思う。
  - (国際課) 今年度から実施する研修で「やさしい日本語」について取り扱うため、今後認知度などをアンケートで見ていければと思う。また、やさしい日本語も含めた研修動画をYouTubeに掲載するのでそれも活用していく。
- 外国人住民との交流の機会があれば「やさしい日本語」という用語を知らなくても、経験を通じて自然とやさしい日本語の必要性は身につくものである。研修で教えることも大事であるが、経験を通して身につける機会を設定することも大事である。
  - (国際課) 県でも外国人留学生在が子ども食堂や学童保育に赴き交流する、高校生を地域の日本語教室に受け入れて見学の機会を設けるなど、コロナ禍で制限はあるものの交流の場を設定し始めている。
- 特定技能制度等で入国するため来日時に N4 レベルの日本語を学んでいる外国人が増加している状況であるが、来日後に日本語をより勉強したい外国人も多く、日本語学習需要は今後もさらに見込まれると思われる。
- 前回プランでは 9,000 人のボランティア登録者数を指標としていた。現プランでは 5,000 人の育成を目標としているが人材は重複するのか。
  - (国際課) 重複は避けられない。しかし、前は語学力を生かし、通訳としてのボランティアを前提としていたが、今回は語学力不要で身近な外国人住民の支援をするためのボランティアとしている。

(2) 今年度の実施事業について

資料2に基づき、国際課から説明。特段の意見はなし。

## 4 閉会